

子どもの記憶よ、永遠に

東映アニメーション執行役員、製作部長
兼企画部エグゼクティブプロデューサー 鷲尾 天（昭和59年卒）



業規制なども強化されましたが、その頃は不夜城のようでした。

プリキュア」にかけた思い

皆さん、こんにちは。昨日は、久しぶりに同期の方々を集まり、昔話に花を咲かせました。高校時代のことがよみがえり、改めて自由奔放な学校生活を送っていたものだと思いました。（笑）当時の先生方にはご迷惑をおかけしたかもしれません。この場を借りて謝ります。

さて、今日は「子どもの記憶よ、永遠に」というテーマでお話します。

映像との出会い

私は高校卒業後、慶應義塾大学に進学し、卒業後は1992年から6年ほど秋田朝日放送で報道記者をやりました。そこから東映アニメーションに移り、アニメや映画制作の道へ進むことになりました。

今は新しいビルになりましたが、当時は古い建物で、スタッフルームにはフィギュアが山ほど並べてあって、まさに趣味に生きていく方ばかりでした。現在では残



黒が基調のプリキュア

©東映アニメーション

私は、子供向けのアニメを中心に、「ワンピース」「プリキュア」「おしりたんてい」などを手がけてきました。ご存じだと思いますが、女の子向けのアニメ、プリキュアは2004年に西尾大介監督と組んで始めました。それまでの女の子のアニメは魔法が使えるとか素敵な王子様が助けてくれるというものが多かったのですが、プリキュアは普通の中学生が自分たちで問題に立ち向かうというテーマで行くことにしました。当時は非常に斬新でした。西尾監督は、「女

の子だからすぐ泣いたりするのは止めよう」といつも言っていました。また、女の子はピンクというイメージをひっくり返して黒をメインカラーにしました。1年目に4〜6歳の女の子の年間平均視聴率39%、最高視聴率62・5%という驚くべき数字を取りました。

プリキュアのシリーズは3年目にキャラクターを刷新したときに大きな壁にぶつかりました。これでシリーズも終わりかと思いましたが、キャラクターデザインに初めて女性を起用し、「2人はプリキュア」というタイトルが始まったのに、5人チームにしたら再び大ヒット。今やプリキュアは87人にまで増え、日曜朝8時半の枠を支え続けています。

2023年には、20周年で、全プリキュアが登場する映画を作った社会人になった20年前の女の子たちが映画館に戻って来てくれた。また、スピノフのTVシリーズとして「大人になったプリキュア」というコンセプトの作品も放送しました。「大人になるのも悪くない」というメッセージを込めました。

米アカデミー賞にノミネート

ここで少し別の作品の話もさせていただきます。

短編アニメーション「あめだま」という作品です。原作は韓国



あめだま
©Baek Heena, Toei Animation

の絵本。リンドグリーン記念文学賞を受賞したベク・ヒナさんの作品です。内気な少年が不思議な「あめだま」を通じて次第に心を開いていく物語です。私はこの原作に惚れ込んでどうしても作りたいと思ったんですが、どう考えてもビジネスにはならない。頭をひねって、「アジアを代表する絵本を映像化することで会社のブランド力を高めよう」といった理屈で会社の上層部を説得したんです。本当にプロデューサーって、うさぐさい仕事ですよ。（笑）「映画祭で賞を取ります」とか何の根拠もなく言って。監督は西尾大介さん、音楽は佐藤直紀さん。「ALWAYS 三丁目の夕日」で日本アカデミー賞音楽賞を受賞された方です。

幸運なことに、「あめだま」は子供向け映画の賞をたくさん受賞し、昨年のニューヨーク国際子ども映画祭でも最優秀賞をいただきました。そうするとアメリカのアカデミー賞にエントリー資格ももらえるんですよ。それでエントリーしてみたら12月に連絡が来てショートリスト（15作品）に選ばれたと言われました。今年の1月

23日には5作品に絞られるというので、みんなでテレビの前に集まって固唾をのんでオンラインの生中継を見ていました。英語のタイトル「マジックキャンディ」が途中まで読まれたところでみんながクラッカー鳴らして、もうその後のことは全然記憶にありません。そして3月2日にあのアカデミー賞授賞式に行ってきました。みんなドレスアップして。セレブたちもたくさん来ていて、ちゃっかり写真を撮ってるスタッフもいましたが、私はあちこち取材で引き回されているうちに気づいたら会場に入っていたという感じでした。アカデミー賞の受賞はなりませんでしたが大変貴重な経験をさせていただきました。

子どもの頃見たものは忘れない

ずっと子供向けのアニメーションを作ってまいりましたので、「子どもの頃に見ていました」と言っている方によく会います。子どもの頃に見たものは忘れませんよね。昨日の夕食に何を食べたかを忘れても、子どもの頃の記憶は持ち続けています。私もそうです。そういうものを創る仕事ができます。ことを本当に喜びに感じています。

Profile

わしお・たかし／1989年慶應義塾大学法学部卒。92年AAB秋田朝日放送入社。98年東映アニメーション（旧東映動画）入社。企画部プロデューサーとして「キン肉マンⅡ世」、「ふたりはプリキュア」、「怪談レストラン」、「おしりたんてい」、「不思議駄菓子屋 銭天堂」などを立ち上げる。現在は、東映アニメーション執行役員、製作部長兼企画部エグゼクティブプロデューサー。趣味…な、無い！モットーなるべく頑張る